

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤富和)発行  
092-512-1636  
090-9602-0700

# 諫早の開門調査は不可欠だ

【日経「社説」・5月2日】長崎県の諫早湾干拓事業を巡って、政府・与党の検討委員会が潮受け堤防の排水門を開き、水質が悪化した原因の調査を求める報告書をまとめた。赤松隆農相は5月半ばにも最終判断を示すという。

同計画は有明海の一部である諫早湾を全長7キロの堤防で閉め切った干拓した事業だ。670ヘクタール程度の農地ができ、約40の農家・法人が営農している。高潮などに備えた防災機能を強化する目的もあった。

一方、有明海の環境の悪化でノリや貝類の漁獲高は減少した。漁業者や佐賀県などはその原因を、干拓でムツゴロウの生息地だった干潟が消えたためだと主張している。

この事業は一度始まると止まらない公共事業の象徴だった。戦後早々に食糧増産を狙って広大な水田をつくる構想が浮上。1970年代初めにコメの減反政策が始まり、防災と畑地の造成に目的は変わった。

その後も計画は見直され、ほぼ現在の姿になった2002年の時点で、事業の効果は2500億円にのぼる費用を下回った。それでも国は事業を強行した。07年の事業終了後も関係者の対立が続いている。

政府・与党の検討は期間が短く、不十分な面もある。赤松農相の姿勢について「参院選を意識しているのではないか」との見方もある。しかし、検討委が指摘するように、環境や漁業被害の原因を調べるためには開門調査は不可欠である。

有明海の水質が悪くなった原因は実際には様々だろうが、干潟が消え、水質を浄化する機能が低下した可能性はぬぐえない。しっかりと調査をしないと客観的に判断できない。

これまでも中長期の開門を求める動きはあった。漁業者が起こした訴訟で佐賀地裁は08年、国に5年間の調査を命じた。その際、漁業被害と事業の関係の一部認めている。

開門すれば調整池に海水が入り、農業用水として使えなくなる。被害が出た時の対応策も必要だ。開門に反対する長崎県などと協議したうえで環境影響評価を実施し、開門方法などを詰めてほしい。

恒久的に開門するかどうかは調査をした後に決めればよい。開門調査をするなら、政府は佐賀地裁の判決に対する控訴も取り下げろべきだ。

## 開門を海上デモ計画

原告漁民ら18日100隻規模

【朝日・5月9日】国営諫早湾干拓事業(諫早市)の潮受け堤防排水門開門調査について、赤松隆農相水産相が今月中に態度表明するのを控え、開門を求める訴訟原告の漁民らが8日、佐賀市で集会を開いた。「今を逃せばまた先送りになる」として、早期の開門実現を求めて漁船100隻規模による海上デモを18日に実施することを決めた。

馬奈木昭雄弁護士長は集会で、「環境影響評価(アセスメント)を行った上で開門調査をすることが適当」として政府・与党検討委員会の報告書について、開門の時期や方法、農業や防災への対策が具体的に明記されていないことを問題点として挙げた。原告団・弁護団として

(1) 防災対策を完璧にすると明言し、必要な対策をただちに施す(2) 小規模な開門をしながらアセスを進める、との提案を農水相にしている。原告団は海上デモのほかに、赤松農水相との面会も働きかけ、「農業・防災と漁業の両立する早期開門を」と求めるファックスを農水相あてに送る運動を広げることと決めた。訴訟原告団長の松永秀則さん(56)「諫早市は「開門までもう一押しのところまで来ていない感じを受けた。アセスは時間稼いだ。海上デモでは、即時開門を求めたい」と話した。副団長の平方宣清さん(57)「太良町は「開門引き延ばしへの不安はまだぬぐえない」とした。

## 色落ちのり生産32億円減

【NHK・5月3日】福岡県の今シーズンの養殖のりについて、有明海では、黒く色づかない色落ちの被害が出た影響で生産額は平年に比べて32億円余り減りました。福岡県によりますとのりの養殖場のうち、柳川市や大川市沖の有明海ではことし1月中旬からプランクトンが急激に増えたため、のり成長に必要な栄養分が減り黒く色づかない色落ちの被害が出ました。3月に入り栄養分が回復して持ち直したものの、販売枚数は平年をおよそ3億7000万枚下回るおおよそ11億417万枚、生産額も32億円あまり少ないおおよそ109億円にとどまりました。

## ユスリカ 今年も大量発生 諫早

【毎日・5月13日】国営諫早湾干拓事業で造成された堤防道路で、今年もハエの仲間である「ユスリカ」の大量発生が始まった。県によると、4月下旬から晴天の日に発生しているという。複数の蚊柱状になって確認されており、発生原因については「不明」としている。これで3年連続の発生となる。排水門の開門を訴える「よみがえれ！有明訴訟」の弁護団は「水質が悪い調整池が発生原因」と指摘。12日に堤防道路などを視察した田添政継・諫早市議(社民)は「虫が体にまとわりつき、観光客が訪れるのは無理じゃないのか」と話していた。